令和８年度　山口県立大学　看護栄養学部看護学科

学校推薦型選抜
県内高校枠
「総合問題」

試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

注意事項

1　解答は全て解答用紙に記入してください。

2　試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせてください。

3　不正行為について
①　不正行為については厳正に対処します。
②　不正行為に見えるような行為が見受けられた場合は、監督者が注意します。
③　不正行為を行った場合は、その時点で受験をとりやめさせ退室させます。

4　試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰ってください。

問題１　以下は、新井紀子氏執筆の「AI vs. 教科書が読めない子どもたち」の一部である。この文章を読んで、３ページの設問１～５に答えなさい。

スマートフォンの普及で、AI※1)は私たちにとって身近なアイテムになりました。街を歩けば、おいしいラーメン屋さんの情報や電車の(a)ノリカエアンナイなど、なんでもスマートフォンに教えてもらっている人の姿を見かけます。

私がどこにいても、勤め先のある神保町までの行き方を教えてとお願いすると、スマートフォンはすぐに教えてくれます。頂きものの(b)松茸をおいしく料理する方法だって、なんでもこいです。ですから、スマートフォン、つまりAIは私たちの質問の意味を理解し考えてから、答を教えてくれているのだと思っている人も多いと思います。

けれど、AIは意味を理解しているわけではありません。AIは入力に応じて「計算」し、答を出力しているに過ぎません。AIの目覚しい発達に目が眩んで忘れている方も多いと思いますが、コンピューターは計算機なのです。計算機ですから、できることは基本的には(c)四則演算だけです。AIには、意味を理解できる仕組みが入っているわけではなくて、あくまでも、「あたかも意味を理解しているようなふり」をしているのです。しかも、使っているのは足し算と掛け算だけです。

AI（コンピューター）が計算機であるということは、AIには計算できないこと、基本的には、足し算と掛け算の式に(d)翻訳できないことは処理できないことを意味します。ですから、AI研究者は、世の中のあらゆることを、たとえば、(e)ガゾウ処理をするための方法を、質問に応答する方法を、あるいは英語を日本語に翻訳する方法を数式で表そうとして、日々、頭をフル回転させているのです。

（中略）

AIの弱点は、万個教えられてようやく一を学ぶこと、応用が(f)キかないこと、柔軟性がないこと、決められた（限定された）フレーム（枠組み）の中でしか計算処理ができないことなどです。繰り返し述べてきたとおり、AIには「意味がわからない」ということです。ですから、その反対の、一を聞いて［　①　］を知る能力や応用力、柔軟性、フレームに囚われない発想力などを備えていれば、AI恐るるに足らず、ということになります。

では、現代社会に生きる私たちの多くは、AIには肩代わりできない種類の仕事を不足なくうまくやっていけるだけの読解力や常識、あるいは柔軟性や発想力を十分に備えているでしょうか。常識の欠如した人が増えてきているのは(g)嘆かわしいことですが、大半の人が持ち合わせていなければ、それはもはや常識とは言いませんから、常識や無意識の人間らしい合理的判断は大半の人が持ち合わせていることにしておきます。問題は読解力を(h)キバンとする、コミュニケーション能力や理解力です。

（中略）

(i)表層的理解はできるけれど、推論や(j)ドウギ文判定などの深い読解ができない場合、文章を読むのは苦ではないのに、中身はほとんど理解できていないということが起

こり得ます。コピペでレポートを書いたり、ドリルと暗記で定期テストを乗り切ったりすることはできます。けれども、レポートの意味や、テストの意味は理解できません。AIに似ています。AIに似ているということは、AIに代替されやすい能力だということです。

私が最近、最も(k)憂慮しているのは、ドリルをデジタル化して、項目反応理論を用いることで「それぞれの子の(ℓ)シンドにあったドリルをAIが提供します！」と宣伝する塾が登場していることです。こんな能力を子どもたちに重点的に身につけさせることほど無意味なことはありません。問題を読まずにドリルをこなす能力が、最もAIに代替えされやすいからです。

（中略）

近未来にAIに人間の仕事が代替される時代がやってきても、これまでのイノベーションがそうであったように、新たな仕事が生まれ、AIで仕事を失った労働力は新しい産業に吸収されていくはずだ。人間と違って24時間働き続けられるAIにより生産性は向上し、経済は成長するはずだと楽観論も見られます。

（中略）

けれども、それだけではありません。もし、楽観論者の方々が言うように、AIで仕事を失った人々を労働力として吸収する新しい産業が生まれるとして、それはどのような仕事でしょうか。もちろん、AIにはできない仕事でなければなりません。新しい産業が生まれたとしても、その仕事がAIにできる仕事なら、失業者を労働力として吸収することにはならないからです。ですから、新しい産業が提供する仕事は、人間にしかできない仕事でなければなりません。

もしそんな産業が［　②　］の筍（たけのこ）のように生まれたとしても、大きな問題が生じます。たとえそれが人間にしかできない仕事であったとしても、AIで仕事をなくした失業者を吸収することができない可能性があるからです。

東ロボくん※2)のチャレンジが明らかにしたことは、AIはすでにMARCH※3)の合格圏内の実力を身につけたということです。その序列は大学進学希望者の上位20%です。大学に進学しない人も含めると、序列はもっと上がるはずです。つまり、AIにより仕事を失った人のうち、人間にしかできないタイプの知的労働に従事する能力を備えている人は、全体の20%に満たない可能性があるということです。

一方、私たちのRST※4)の全国調査で明らかになったのは、日本人の決定的な教科書読解力の不足です。読解力こそ、AIが最も苦手とする分野であることは、この本の中で再三述べてきました。しかし、残念なことに多くの人が、AIに対して(m)ユウイに立てるはずの読解力で、十分な能力を身につけていません。さらに、(A)日本の教育が育てているのは、今もって、AIによって代替される能力です。

こうした状況はどういう結末を招くことになるでしょうか。

出典：新井紀子著「AI vs. 教科書が読めない子どもたち」，東洋経済新報社，2018，107-108，171-172，229-230，271-273．一部改変

※1）AI とは、人工知能
※2）東ロボとは、ロボットは東大に入れるかと名付けた人工知能プロジェクト
※3）MARCH とは、明治大学、青山学院大学、立教大学、中央大学、法政大学を表す略語
※4）RST とは、文章を読み解く力を測定・診断するテスト

設問１　下線部(a)～(m)のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで書きなさい。

設問２　文中の［　①　］に入る言葉を漢字で書きなさい。

設問３　文中の［　②　］に入る言葉として最も適切なものを１つ選びなさい。

(ア)森林
(イ)春
(ウ)夏
(エ)雨後
(オ)晴天

設問４　著者の全体的主張を 100 字以内で述べなさい。

設問５　下線部(A)で述べられている「日本の教育が育てているのは、今もって、AI によって代替される能力です。」とありますが、看護学科で学ぼうとするあなたは、AI に代替されないためにどのような力を身につけたらよいと考えますか。あなたの経験を踏まえて 400 字以内で述べなさい。

問題２　次の英文を読んで、設問１～６に答えなさい。

Obesity rates are at record highs among Japan's fifth graders and second-year junior high school boys as elementary and junior high school students in the country are spending more time watching videos, a test by the Japan Sports Agency has revealed.

An academic 2022 physical fitness and motor skills test was conducted (ア) April and July last year on a total of approximately 1.9 million fifth-grade elementary school students and second-year junior high school students at all of Japan's national, public and private institutions.

As a result, the total points scored in eight sporting events, which included a 50-meter dash and a standing long jump, marked a record low for both elementary school and middle school students since the test began in the 2008 school year.

The test also examined changes in lifestyle habits with a questionnaire. The proportion of children who spend 4 or more hours a day on ①"screen time" -- watching TV or using smartphones for purposes other than studying -- was 27.1% among fifth grade boys, 22% for fifth grade girls, 28.3% for second-year middle school boys, and 26.1% for second-year middle school girls, all of which were up from the previous year. In addition, fewer children were eating breakfast and sleeping 8 or more hours a day, indicating a disruption in their "life rhythm."

The agency considers that the decline in physical fitness is due (イ) changes in lifestyle that have kept children away from physical activity, and that the coronavirus pandemic has spurred this trend.

The percentage of children who spend a total of 7 or more hours a week on physical activity has not returned to pre-pandemic levels in each age group, and even among fifth grade boys, who showed the greatest improvement from the academic 2021 results, the percentage was 50.1%, about 5 percentage points below the 2017 figure.

On the other hand, 14.5% of fifth grade boys were obese, up 1.4 points from the academic 2021 survey, as were 9.8% of fifth grade girls, up 1 point. Regarding middle schoolers, second-year boys had a 11.4% obesity rate, up 1.4 points. Obesity rates for all groups except female second-year junior high students were at record highs.

The agency speculates that one of the reasons for the decline in exercise time and physical fitness is that the habit of wearing masks has taken root amid the pandemic, and children tended to avoid hard physical exercise because they found it difficult to breathe while exercising (ウ) their masks on. While

the agency has been informing schools through local boards of education and other bodies since 2020 that it is unnecessary to wear masks in physical education classes, there have been numerous cases of schools having students exercise while wearing masks due (イ) concerns about the risk of infection.

However, even when the pandemic is over and children return to their normal lives, a dramatic improvement in physical fitness cannot be expected. Takahiro Nakano, a professor at Chukyo University's School of Health and Sport Sciences, who was involved in the analysis of the test, noted that the decline in total physical fitness scores has been a trend since around 2019, and stressed, "The effects of the coronavirus pandemic cannot be ignored, but they are not the only cause."

In recent years, the structure of children's daily life has changed, and Nakano said that children's lives now include time for non-sports lessons and looking at modern devices.

"In addition to promoting the importance of playing sports in their daily lives, we need to think about how to let children secure time for exercise in their lives," he added.

出典：Obesity rates rising as kids in Japan spend more time watching videos: sports agency, By Yongho Lee, The Mainichi, January 8, 2023 一部改変
https://mainichi.jp/english/articles/20230106/p2a/00m/01i/029000c (2025年7月31日アクセス)

注) obesity/obese 肥満, reveal 明らかにする, motor skills 運動能力
record low 過去最低, examine 調べる
questionnaire アンケート調査, proportion 割合
life rhythm 生活リズム, spur 拍車をかける・促進する
trend 傾向, speculate 推測する, take root 定着する
local boards of education 地方教育委員会
dramatic improvement 劇的な改善, cannot be ignored 無視できない
in recent years 近年, structure of daily life 生活構造
secure time (時間を) 確保する

設問1 (ア)・(イ)・(ウ) に入る最も適切な語句を下記から1つずつ選びなさい。

in	of	from	to	and	but	during
because	on	at	between	with	by	

設問２　2022 年度の調査で小学５年生男子の肥満率は何％か記述しなさい。

設問３　体力合計得点が過去最低となった２つの学年を日本語で記述しなさい。

設問４　2022 年度の体力・運動能力調査による運動能力の合計得点が過去最低となった理由として、どのような生活習慣の変化が挙げられていますか。文章中には複数の理由が挙げられていますが、２つ挙げ、日本語で記述しなさい。

設問５　下線部①の具体的な内容を日本語で記述しなさい。

設問６　Nakano 氏は、子どもたちの運動時間の確保についてどうすればよいと述べていますか。日本語で記述しなさい。

令和８年度　山口県立大学　看護栄養学部看護学科

学校推薦型選抜　県内高校枠「総合問題」　出題の意図

【国語】

国語の問題文は、新井紀子氏執筆の「AI vs.教科書が読めない子どもたち」の一部を出典としている。設問１では、国語の基礎的な学力として漢字の読み書きなどの知識を問う。設問２および設問３では、慣用句に関する問題を通して、言葉に関する知識（語彙力・言語知識）を確認する。設問４では、問題文を読み取り、筆者が述べる「人間が持つべき力」としての読解力・応用力・柔軟性・発想力に関する主張をどの程度理解しているか（読解力・理解力）を問う。設問５では、文章全体の内容を踏まえ、自分の考えを論理的にまとめて表現する力（論理的思考力・文章表現力）を問うものである。

令和８年度　山口県立大学　看護栄養学部看護学科
学校推薦型選抜　県内高校枠「総合問題」　出題の意図

【英語】

英語の問題文は、「Obesity rates rising as kids in Japan spend more time watching videos: sports agency　The Mainichi/January 8, 2023」からの出題。

2022年度の体力・運動能力調査結果（小学校５年生と中学２年生）の分析と、肥満率が高くなる要因や今後の運動時間の確保の重要性を述べている論旨と構成を持った英文を読み、その要点を読み取ることができるかどうかを評価する問題である。

受験生には、高等学校における英語の授業内容を適切に習得し、英語文献を読み、理解するための基本的な英語の力が備わっているかを問うものである。

設問１は英語に関する基礎知識（ＡＰ≪知識・技能≫に関連）を評価する。

設問２は文章を正確に読み取る読解力（ＡＰ≪技能≫と関連）を評価する。

設問３は文章を正確に読み取る読解力（ＡＰ≪技能≫と関連）を評価する。

設問４は文章を正確に読み取る読解力（ＡＰ≪技能≫と関連）を評価する。

設問５は文章を正確に読み取る読解力（ＡＰ≪技能≫と関連）英単語の意味を理解する語彙力（ＡＰ≪知識≫に関連）および英文を日本語に訳す表現力（ＡＰ≪表現力≫に関連）を評価する。

設問６は文章を正確に読み取る読解力（ＡＰ≪技能≫と関連）および英文を日本語に訳す表現力（ＡＰ≪表現力≫に関連）を評価する。

令和８年度　山口県立大学看護栄養学部看護学科
学校推薦型選抜　県内高校枠「総合問題」模範解答

受験番号	

◎　◎　◎　◎

（4枚の１）

問題１

設問１

(a)	乗換案内	(b)	まつたけ	(c)	しそくえんざん	(d)	ほんやく
(e)	画像	(f)	利	(g)	なげ	(h)	基盤
(i)	ひょうそうてき	(j)	同義	(k)	ゆうりょ	(ℓ)	進度
(m)	優位						

設問２

十

設問３

(エ)

設問４　→ 横書き

100字

AIは実際に意味を理解しているわけではないので、読解力や常識、柔軟性や発想力が必要な仕事は、AIに代替されることはない。このような人間にしかできない仕事をするための能力を育てることが必要である。

令和８年度　山口県立大学看護栄養学部看護学科
学校推薦型選抜　県内高校枠「総合問題」模範解答

受験番号	

◎　◎　◎　◎

（4枚の2）

設問５　→ 横書き

100 字

200 字

300 字

400 字

令和８年度　山口県立大学看護栄養学部看護学科
学校推薦型選抜　県内高校枠「総合問題」模範解答・採点基準

受験番号	

◎　◎　◎　◎

（４枚の３）

問題2

設問1

（ア）	（イ）	（ウ）
between	to	with

設問2

14.5

設問3

小学校５年生	中学校２年生

設問4

①スクリーンタイムの増加
（テレビやスマートフォンの使用が１日４時間以上の子どもが増加）
②朝食を食べない子どもの増加
③睡眠時間の不足
（8 時間以上の睡眠をとらない子どもの増加）
④運動時間の減少
（マスクの着用による運動の回避、運動中に息苦しさを感じ激しい運動を避ける傾向にある）

設問5

①勉強以外の目的で、②テレビを見たり、③スマートフォンを使用したりする時間

令和８年度　山口県立大学看護栄養学部看護学科
学校推薦型選抜　県内高校枠「総合問題」模範解答・採点基準

受験番号	

◎　◎　◎　◎

（４枚の４）

設問6

採点例

①日常生活の中でスポーツの大切さを伝えるとともに、②子どもが運動の時間を確保できるような仕組みを考える必要がある

①スポーツをすることの重要性を促進し、②運動の時間を確保できる方法を考える